

2026年6月5日

NANOホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長 CEO 松村 淳
(コード：4571 東証グロース市場)
問合せ先 IR 担当：土屋 千映子
TEL：03-6432-0020
URL：<https://www.nano-hd.com>

Nano Bridge Investment (NBI) 事業に関するご説明

当社は、投資事業子会社である Nano Bridge Investment 株式会社(代表取締役社長 飯野智、以下「NBI」)を通じて、創薬・ヘルスケア領域に特化したファンド運用事業を展開しております。NBI 事業は、当社の中核事業として位置付けております。

一方で、NBI 事業は、従来の創薬事業とは収益構造及び収益化の時間軸が異なるため、その内容が分かりにくいとのご指摘をいただくことがあります。このため、株主・投資家の皆さまに対する情報提供の一環として、NBI 事業の概要、収益構造、進捗等について、下記のとおりご説明申し上げます。

1. NBI 事業の概要

NBI は、創薬・ヘルスケア領域における投資ファンドの運用を行っております。主な投資対象は、未公開企業、製薬企業の創薬パイプライン、上場バイオベンチャー等であり、投資成果の実現手段としては、M&A、IPO、資本市場での Exit 等を想定しております。

従来の創薬事業は、個別の創薬パイプラインの開発進捗に応じた提携の成否に応じて収益が実現する事業モデルです。一方、投資事業は、複数の投資案件から段階的に成果を積み上げることで収益機会の拡大を図る事業モデルです。

2. NBI 事業の収益構造及び収益化イメージ

NBI 事業の収益源は、大きく「管理報酬」と「成功報酬」の2つから構成されます。

①管理報酬

ファンド運用期間中、ファンドへの出資者からお預かりした資金の管理・運用に対する対価として継続的に受領する報酬です。管理報酬率はファンドごとに異なりますが、一般的には年率2%程度です。

ファンドが存続する期間中は毎年継続して発生するため、安定的な経営基盤を支える収益源となります。また、運用ファンド数や運用残高が増加することで収益も積み上がっていきます。

②成功報酬

投資先の M&A や IPO 等の EXIT が実現した際に発生する収益です。投資先の価値向上（バリュアップ）によって生じたキャピタルゲイン（値上がり益）の一部が、成功報酬としてファンド運用会社に帰属します。一般的に、成功報酬はキャピタルゲインの 20%程度です。

NBI と SBI 新生企業投資株式会社が共同で組成したファンド「Bio Bridge I」のファンド期間は 6 年 11 か月を予定しております。当該期間において、管理報酬等による安定収入を継続的に受領するとともに、投資成果の実現に応じた成功報酬の獲得を目指しております。

ファンドへの出資者は、国内外の機関投資家（銀行、保険会社、年金基金等）及び事業会社となります。1 号ファンド Bio Bridge I においては、2027 年 6 月末までに 150 億円規模（NANO ホールディングスからの出資を含む）の資金調達を目指しております。さらに、継続的な 2 号ファンド、3 号ファンドの組成及び投資基盤の拡充を推進してまいります。

また、NANO ホールディングスは Bio Bridge I の出資者であり、出資者としてファンドの運用成果を享受する立場にあります。なお、ファンドへの出資金は、NANO ホールディングスの株式を使用した資金調達とは異なります。

3. NBI 事業の進捗

現在、投資活動の本格化に向けた案件選定を進めております。2026 年 6 月 5 日時点において、既に接触案件は 89 件、秘密保持契約締結案件は 32 件となっております。また、共同投資を行う米国ベンチャーキャピタル 18 社との連携構築を進め、複数案件のデューデリジェンスを実施し、投資実行に向けて鋭意取り組んでおります。

4. ファンド事業に関する NANO メンバーの Track Record（実績）の重要性

ファンドへの出資者は、ファンドのコンセプトとともに、ファンドマネージャーの実績（Track Record）及びそのパフォーマンスの再現性を評価した上で投資判断を行います。この実績が、国内外の機関投資家からの信頼獲得につながり、ファンド出資者からの資金調達を支える重要な基盤となっております。

松村 CEO 及び飯野 CIO は、過去 20 年間にわたり日本のバイオ・ヘルスケア領域における投資及び事業創出に継続して携わっており、ブルームバーグ社データベースにおいて、2000

年以降に組成された成長型プライベートエクイティファンド群(4,400 ファンド)の中で、IRR (内部収益率) 276.5%を記録し、ランキング No.1 の運用実績を有しております。

また、Neil W. Gibson 博士 (Nano Holdings US Chairman) は、ブロックバスター抗がん剤であるテモゾロミド、ソラフェニブ、エルロチニブやクリゾチニブの研究・開発・商業化に貢献するとともに、OSI Pharmaceuticals において企業価値を約 1.8 億米ドルから 40 億米ドルへ、Regulus Therapeutics において約 2,000 万米ドルから 17 億米ドルへ成長させました。また、ベンチャーキャピタルにおいて新規バイオベンチャーの創出・育成を主導し、NASDAQ 上場及び総額 2 億米ドル超の資金調達にも関与するなど、創薬事業及び資金調達において豊富な実績を有しております。

また、富所 CGO は、日東電工においてディスプレイ材料事業の成長を主導し、グローバル顧客の開拓、事業ポートフォリオ改革、知財の収益化、非中核事業の売却等々様々な手法を駆使して売上高を 10 億円未満から 3,500 億円規模へと拡大させました。事業創出と拡大、そして高収益化の実績は、NBI の投資先の価値向上支援における重要な競争優位性となっております。

5. 今後の情報発信について

当社は、株主・投資家の皆さまに NBI 事業への理解をより深めていただくことを目的として、ファンド事業の収益イメージ、Bio Bridge I の戦略について、より分かりやすくご説明する解説動画を来週公開予定です。

今後も継続的な情報発信を通じて、株主・投資家の皆さまへの説明の充実に努めてまいります。

以上